

刊夕日五月十

常警每日新聞

定価一冊五錢 郵費五厘
 廣告料五號十二字 一行金五拾錢
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常警毎日新聞社
 印刷所 常警毎日印刷株式会社

象徴と寫實と (下)

水野 秀雄

この象徴的な挿繪は、あんまり多くてもいけないとおもふ。毎日の挿繪の大部分は、無論その小説に即した寫實を主とすべきで、象徴的なものは數日、或は十數日に一回で、いゝと思ふ。

次に、何が象徴さるべきであるかといふに、それはその日の小説の文章によることであるが、大體次の如きものであらうと考へる

一、その日の小説に盛込まれた思想を象徴すること
 例へば、そこに出てくる人物の獨白とか、思考とか、

ノット

秋は鳴虫の季節然し鳴く方は何れも雄で、雌には發音器がなく腹や脚にある聽音器でこの聲をさくのみだ

恐怖とかの叙述が、その日の小説の中心を占めてゐる場合である。

二、同じ場面が何日も續いた時には、會話の一部を取りその内容を象徴する。同じ場面の挿繪が毎日續くことは、讀者をして倦怠を感ぜしめるからである。さうして、象徴的な挿繪はこの場合に、比較的大きな効果を持つであらう。

くことは、讀者をして倦怠を感ぜしめるからである。さうして、象徴的な挿繪はこの場合に、比較的大きな効果を持つであらう。

三、その日の小説に現はれて、而もクライマックスとも云ふ可き場面が、往々

明日の献立

【朝】味噌汁 三洲煮越うど小付 とうがらし

【晝】味噌干魚 さつま芋 つぶし煮

【晚】オムレツライイス スカロツブトポテイス

にして寫實し得ない非人道的なものであつたり、風紀的によろしくない合があるか、かういふ場合は當然象徴的に描かるべきである。

豫徴的挿繪を必要とするのは、或は以上の三つの場合のみに限らるべきではないかもしれない。然し、その大凡のことは盡し得てゐると思ふ。

さうして、これらの事件を象徴するに際して、努めて心がけねばならぬのは、それらの象徴が一般に常識として知られてゐるのへその元の姿を失はない程度に於いて手を加へることである。これらの手心を加へるこ

とは、非常に陰慘な繪も、時に洒脱な或ひはとぼけたやうな、禪味とか仙骨とかいつたものをもたらし、見るものをさして、さして不懐を、感ぜしめないのである。

以上、甚だ雜駁ながら、僕が平素考へてゐたことを述べてみた。勿論言葉も足りないことだから、自分自身でも甚だ不満足なものになつてしまつたが、然し、これによつていく分でも考へねばならぬ點を示唆し暗示を與へることが出来るならば筆者以外の光榮とするところである。



俳句

秋

木村 青涼

秘めて讀む燈火親しや寄宿寮
 掃きためし落葉に一火點
 じけり
 秋の海潮高なれば唄ふ海士
 コスモスの多き隣や秋の雨

外科 X 光線科

外性病科
 科科
 意隨院入

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

白土喜伯先生
 教授披露素謠

期日十月七日午後一時始
 於 藤田女學校

翁

白土喜伯 上野八朗
 須田哲二郎

竹生島

須田哲二郎 上野八朗
 栗谷益二郎

花

上野八朗 白土喜伯
 須田哲二郎

國

上野八朗 須田哲二郎
 舞

葛

白土喜伯 上野八朗
 栗谷益二郎

以

白土喜伯 上野八朗
 栗谷益二郎

(入場料は、いりません)
 (御家族様御同伴歓迎)

福島縣平町新田町二八
 電話一〇二七番

一冊の代金で
 御希望通りな

五冊の雑誌が
 自由に讀める

自由の讀める

川崎巡回文庫

電六三〇番
 (申込次第規則書進呈)

秋!!! 甜の秋!!!

ドライブ……訪問……には

是非! 素晴らしく乗心地のよい

セリザワのニューカーを!

女事務員募集

希望者は至急來談あれ……
 年齢十六、七歳より二十四、五歳迄
 給料面談

御用命下さい「電395番」

平・三 芹澤タクシー

内科

川井内科診療所
 平町(電話二四三番)

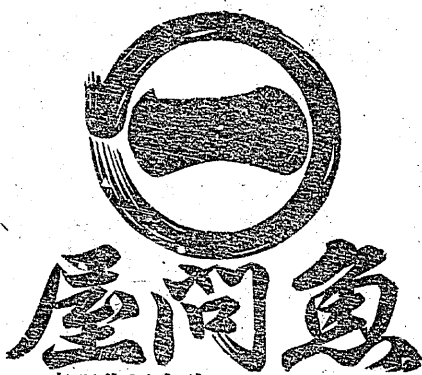
川井安子

内科 小兒科 花柳病科

藤沼醫院
 平町紺屋町 電話五〇七番

かつを

塩から



店理代平命生本日大最優最
 榮盛賀志
 (三一電)目丁四平

平地方の米價は

拂下げ後が問題

新米の出廻りが遅れれば

更に騰勢を辿る

米作は稀有の大凶作豫想を
る上に昨今の冷雨が悪影響
を及ぼしその後の作柄も益
々悲觀されつゝある傾向に
あるので平地方の米價は更
に漸騰歩調を續け新米の出
廻りが遅れれば遅れるだけ
騰勢を辿らんかの振合であ
る、しかし

政府米の 豊富なる間
は暴騰抑壓が出来るであら
う問題は拂下げが進行し來年
の夏場ともなつて政府米が
稀薄化してからである買受
申込が續出して政府持米が
半減するに至らば、高値調
節の偉力が薄弱となり、高
潮したる

昂騰米の 流出が増加

して在米薄を緩和する振合
にあるのだから秋揚天候が
執拗に悪化せざる限り今日
までに見た如き狂騰は演ぜ
ざるであらうといふのが事
實亦天候に異變なしとすれ
ば政府米に頭を抑へらるべ
きことは必然の成行である
から

市場人氣 を抑制し得

なくなるであらう又不幸に
して來年亦萬一天候不良な
ど、來たならば、それこそ
最高公定値を尻目に凄じき
相場を現出することあるや
も計り難く、政府は高値抑
制に苦慮せねばならぬ時代
が來るであらうと見られて
ゐる

所得選舉

立會人決定

十日執行される所得調査委
員選舉の立會人は民政派英
川淺次郎、政友派馬目武之
助兩氏に決定した

四倉齋市場

昨日
取引は千五百七十一貫三百
五十匁の取引あり相場は最
高廿八圓、最低廿一圓、馴
廿六圓で三日のガタ落とな
つた馴相場より八十錢の擡
頭を見せ同市場の出廻最盛
期も八九日頃迄であらうと

幹部講習

平青年團で

平町青年團では十六日午後
一時から平第一小學校講堂

競技半ばに

降り出した雨

晴れ次第明日引續き決行

平第一小學校陸上運動會は
本日午前七時半より同校々
庭に於て國旗掲揚 國歌合
唱の後篠山校長の開會の辭
に次いで優勝旗紅白對抗の
返還あり運動會歌を合唱直
ちに演技に移つたが生憎競
技半ばに於て觀覽者出盛る
頃雨が降つて來た爲め止む
なく中止した明日晴れ次第
引續き決行すると

平第二校の

メタル授賞者

既報去る三日雨の爲め中止
となつた平第二小學校運動
會は本日午前八時より再會
したが各學年に於けるメタ
ル授賞者左の如し
(四年)黒木智子 原トミ

常設消防の組織を

警備委員が視察に出張

既報「常設消防隊」の設置計
畫は昨日の警備委員會で協
議の結果先づ先進地を視察
して要項を確立することに
なり熊谷、秩父兩都市の組
織視察研究の爲め警備委員
は今夜の準備で出發するこ
とになつたが若し實施する
事になれば明年からの豫
定で消防手を交替に常備す
る模様である

二等局長會議

平郵
便局管内第二區三等局長會
議は明日午前十一時より平
局に於いて開かれ保險事務
を打合せると仙臺通信局か
ら東書記が出席すると尙湯
本方部第一區の局長會は本
日午前十時より同町松泊館
に於いて同く保險事務に就
いて協議した

平窪經濟更生

平窪
村では經濟更生記念日も迫
つて來たので早急に更生計
畫の大綱を樹立すべく六日
午前十時から同村役場で第
一回の委員會を就き協議を
遂げ

飯野信用組合

飯野
村では本年五月以來産業組
合設立の爲め三十餘名の設
立委員を擧げて組合員の募
集中であつたが最近村民の
加入者は三百名に達し出資
口數九百口二萬七千餘圓の
資金を得たので本月十五日
頃同小學校に於いて第一
回の創立協議會を開くと

四倉校運動會

四倉

小學校秋季陸上運動會は來
る十三日同校々庭に於て實
踐水産商業學校並に裁縫女
學校と聯合開催される

平町人事

△長橋町三 小野昇二女道
子さん
△古銀治町一〇 藤井郡田
氏長男篤一さん
△平町字鎌田町四四 鯨岡
藤吾氏三男豪さん

昭和九年十月四日開催、關西地方災害

義捐金造成防火宣傳活動寫真收支決算
報告

收入之部

一金貳百五拾五圓六拾錢也 總收入金
一金壹百四拾九圓七拾六錢也 總支出金

支出之部

内譯 金壹百〇參圓四拾錢也 寫真代及謝禮
金拾參圓也 廣告及
金參拾壹圓參拾六錢也 雜費
差引 金壹百五圓八拾四錢也 純益金

右金額寄贈方本日平町長へ依頼ス
十月五日

平消防組

組頭 井上茂作

平町各工場

ツブ撰りの選手

健康保險の陸上競技會

知事も臨席

第六回健康被保險者陸上競
技會は既報の如く七日平町
磐中グラウンドで舉行される
が當日は大會總裁畑山知事
會長渡警察部長、副會長岡
本健康保險課長臨席の下に
午前八時入場式を舉行し
三十五種目百十餘回の競技

に移る筈であるが片倉製糸
工場の男女従業員を始め、
各炭礦外丸ほん、山田麻袋
松月堂等三十有餘の工場か
ら約四百名の選手が参加す
る外午前、午後の二回に亘
り片倉製糸従業員二百名の
壯快なマースゲームを添へて

移入品驅逐に

製傘業奮起

品種向上に努め

『磐城傘』の聲價を高む

今年年産六萬本

平町に於ける製傘業は現在十數軒の組合員が年産六萬本を突破する製産能力を發揮して平町及びその近在

各町村

の需要を満し他地よりの移入品を全く驅逐する好成績であつたが最近の材料騰貴により動もすれば移入品に押され勝ちの恐慌を感じた同組合では去月十五日總會を開き對策を熟議した結果從來は大量製産主義にとられ過ぎたため

幾分粗製

亂造の嫌ひがあつた

に鑑み今回からは品質の向上に留意し『磐城傘』の聲價を高めて將來は全國各地に販路を開拓する方針の下に各自研究改良に努力し十月一日より販賣することに決議したといふが年に六萬本を製産する傘業は平町に於隠れたる産業部門として各方面から同組合の今後の躍進を期待されてゐる

漫談の夕

ユーモアの本来

大辻司郎來る

トキーの間に出演

平青年團が主催

平町青年團では資金造成の爲漫談界の人氣者大辻司郎さんを招き十三日午後六時から平町聚樂館に於て「漫談トキーの夕」を催すことになつた當夜は關西風水害實況映畫及び優秀トキー

才植小路青年

分團表彰

平署長から

去る二十五日から三日間に亘つて催された交通安全デパートに平町才植小路青年分團

では分團員總動して交通の指導敷理及び宣傳のため盡力したが今五日平署長から表彰狀を贈られた

團體旅行

會費を値下

既報平驛で豫てより募集中である栃木縣鹿沼町古峯ヶ原神社及び日光方面に一泊する團體旅行の費用は十二圓三十六錢と發表されたが其後鐵道當局で旅館其の他に交渉の結果一圓五錢の値下となり總費は十一圓三十一錢に改められた

産業組合

青年會總會

産業組合石城郡部會では六日午後三時及び九日午後四時二日に亘り平町組合事務所樓上で産業組合青年會總會を開く

傳染病の豫防協議

平署に參集

平署では最近管内各町村に傳染病蔓延の微あるに鑑み今五日午後一時から各町村の衛生主任を招集傳染病豫防その他に就き協議した

平署捕賊功勞

員左記諸氏はそれ／＼捕賊功勞により畑山縣知事から金一封を添えて表彰された
橋谷田代壽 鴨志田信之 安藤八百吉 柏木萬吉 二瓶嘉六 木戸幸三郎 金澤昌司 川島和吉

明日のラジオ

皇の御東征偲び奉りて文學博士 鹽谷温
後八、三〇 東海道演藝道中(第三夜)解説悟道軒圓玉
後九、〇〇 端唄 山村豊
後九、五五 日本棋院秋季(以上準強盜横山正吉協力逮捕) 柏木萬吉(窃盜 鈴木紋吉)直弓忠治(窃盜 渡邊秀吉)金田寛(窃盜 本良平)佐藤今朝雄(詐欺 横領坂本直三郎)

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
お話「何故でせうか」原田三夫
後六、二五 基礎英語講座
岡倉由三郎 講演「神武天皇」
後七、三〇 講演「神武天皇」
草野高志 大谷次男(以上準強盜横山正吉協力逮捕) 柏木萬吉(窃盜 鈴木紋吉)直弓忠治(窃盜 渡邊秀吉)金田寛(窃盜 本良平)佐藤今朝雄(詐欺 横領坂本直三郎)

平町と高久間に

四千圓で電話線

既報高久郵便取扱所の電話交換局設置計畫は平局に於いても大体明年度には實施されるものとして豫てより種々調査中であつたが取敢へず同所と平局間の市外線を工費四千圓にて近く着工することに成り是が竣功すれば同所の三等局昇格も明年度には實施されるものと見られる

義捐金の一部

平町の關西風水害罹災民義捐金の今日までの募集額左記の如くである
二十圓七十錢 八幡小路 五十五圓 研古 十圓月見町

東大選手合戦

後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組預告
明日の部
前六、三〇 基礎獨語講座 岡本修助
前七、〇一 聖典講座(終) 柴田一能
前八、〇〇 婦人講座 「和服雜觀」小野やす子
後八、〇五 琵琶 大森彦七 盛長 安戸旭香
後九、二〇 野球試合實況

産業普及映畫

既報石城産業組合部會の組合思想普及映畫會はけふ午後六時より神谷小學校を皮切りに夏井、小川、磐崎、勿來川部、豊間の各小學校で開催される筈にて映畫題目左記の如くである
漫畫「鼠と獅子」實寫「海の生命線」社會劇「僕等の弟」宣傳映畫「あをぞら」

警中三年演習

警中三年生約二百名は本日好問村方面に於て遠藤庄司兩教官指導の下に野外演習を試みた
裁判所たより
△川前村大字川前山下谷

平職案紹介所報告

△求人を求める方
△炊事婦 三十才前後 學力不問月三圓

六大學理リーグ戦神宮球場中繼

後六、〇〇 子供の時間
お話「ペールさんのお洋服」上野光子
後六、二五 英語講座 二ノ六 久野源郎氣象知識の夕
後七、三〇 講演「暴風警報及津波の話」藤原咲平
後八、四〇 ギャイオリン 獨奏 安藤幸子
後九、〇〇 時事解説 下村宏

△活版職工

△活版職工 二十三才以上 尋卒 給料面談
△自動車運轉手 二十五才 中學三年修了
△料理人 二十一才 尋卒
△事務員 二十七才 商卒
△炊事婦 四十七才 無學

木村外科醫院

門專科病柳花外
院醫科外村木
際橋目丁六町平
番九〇三話電

近新音頭

田邊南龍(作)
山本芙蓉(書)

坊主に變装して
夫にしても權八は何處へ
行つたらう」

「イヤ之は一大事、繩が此
處に解き捨てある、ソレ繩
脱けた取逃がしては相成ら
ん、早く追掛けろ」

と立騒いだが、モウ遅い
何處へ逃げて了つたかサツ
バリ分らない、土地の役人
を頼んで、近郷近在を探し
て貰つたが分りません、そ
こで據らなく空駕籠を昇が
して江戸表へ出て参り宜い
加減の作り事をして其の場
を繕ひ、一同悄然として大
阪へ立戻つたが、さういふ
事が知れず済む氣支はな
い、遂に關係者一同免職に
なつて了つた憎い奴は權八
と怨んだけれども仕方があ
りません。

權八は相模屋を飛出した
が惣じ遠方へ逃げやうなど
とすると役人に追はれると
思ひましたので、程近い處
に稻荷の社があつたので其
の社の縁の下へ忍び込んで
隠れてゐた、燈臺下暗しの
警への通りそんな處に權八
が隠れてゐやうとは思はな
いから、遠くを探して遂に
分らずに、晝の内は隠れ
てゐて夜になると、面を包
んで町へ現れて種々食料

「お天氣が續きまして旅を
する者には仕合せで」
そんな話をしている内に權
八が
「貴僧は之から何方へお出
でになりますか」
と尋ねると
「私は江戸へ参り、田端の
圓性寺といふ寺を尋ねて参
ります」
「圓性寺の住職とお心安い
ので」
「イヤ手前は哲玄、師匠を
哲道と申しますが師匠の手



道筋は人目について危険だ
と思つたので、態と八幡様
へお詣りをしたり大山様へ
お詣りをしたりして日を暮
し、脇道を行いて行く内に
丁度大山様を下つて、山坂
道、休息してゐると傍らに
一人の坊さんが休んで居り
ます。

紙を貰ひまして、圓性寺の
和尚を尋ねて参ります、當
分足を留めて修行をする心得
でございます」
「ア、左様で、拙者も江戸
へ参る者、旅は道連れとい
ふ事もござるから之から御
一緒に参らうではないか」
「夫は願つてはならない事、御

同道いたしませう」
權八は夫となく師匠の哲
道といふ人の様子を尋ねた
り何かいたしましたが、之
は腹に一物あつての事、之
から江戸へ入るのに武士姿
ではどうも難かしい、と云
つて町人も柄にないから出
家になつて行かう、夫には
此の坊主を殺して、衣類を
奪ひ、哲玄と名乗つて圓性
寺といふ寺へ乗込んで行け
ば、誰も平井權八と心附く
者はなからう、さう心中に
考へたので萬一の用意に哲
道の事を委しく尋ねた。
「サア、さういふ出掛け
ませうか、日が暮れると山
道は難澁でござるから」
「大きに左様で、では出掛
けませう」
何の考へもない哲玄は先
に立つてスタスタ行く、權
八は四邊の様子を觀てゐた
が、別段人もない様子に占
めたと思つて
「アイヤ哲玄殿、暫らく」
と聲を掛けた。

黒小倉通學服賣出

一望秋色

さあ御召替です
かかやには皆様の御満
足の得る品が何時も澤
山揃へて御座います

小學生用 (長ズボン付)	
A	90
B	1.10
特製品	2.35
中學生用	
特製6號	3.50
御注文(特上)	6.30

ふかや洋服店 平三 電203

体温計の検査日です

10日 検新 機設 お宅の體溫計は?

◎正確な体温計を御使用下さい
◎毎月十日の検査日御利用下さい

西村屋藥局 電三番

紙子障明透

意匠登録 第六三七八號

- 本品は室内用、室外用の二種あり
- 室内用は張方従来の通り生紙糊にてよろし
- 室外用は特に室外用ノリにて張ればよろし
- 本品は硝子、セルロイド以上の優秀點を具
- 備す
- 雨と風との神様が兩神一緒に暴れても室外
- 用は平氣なり
- 現品は普通障子紙巾にて(長さ九メートル)

◎定價
室内用 六十六錢
室外用 八十二錢

夕伊勢屋 阿部商店 電話四五番

磐城共濟病院

福島縣平町(電話六四一番)

小兒科	院長 石山謙一郎
婦人科	部長 賀一忠
産科	部長 賀一忠
外科	部長 賀一忠
皮膚泌尿器科	部長 賀一忠
耳鼻咽喉科	部長 賀一忠
花柳病科	部長 賀一忠
X光線科	部長 賀一忠
衛生試驗局	局長 賀一忠

◎毎日午前八時ヨリ午後十時迄診療
◎夜間診療開始(毎夜午後十時マデ)
◎病室完備 入院隨意

金成醫院

内外科 一般

平鎌田町(電三五八)